

平成12年5月

セブン-イレブン・ジャパンの企業イメージCM
元「X JAPAN」リーダー YOSHIKIさんの起用決定
～YOSHIKIさんの企画・制作・出演によるTVCMを5月3日より放映開始～

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、YOSHIKIさん(所属:JMA=ジャパン・ミュージック・エンジェンシー)と、企業イメージCMの制作で契約し、YOSHIKIさんの出演・プロデュースによるTVCMを平成12年5月3日(水)より放映致します。

YOSHIKIさんは、平成9年に多くのファンに惜しまれつつ解散した人気ロックバンド「X JAPAN」のリーダーで、昨年、皇居前広場で行われた「天皇陛下ご在位十年をお祝いする国民祭典」において奉祝曲を作曲しピアノ演奏を行うなど、国民的なアーティストであり、先進的なプロデューサーでもあります。

このたび、TVCM初出演となるYOSHIKIさんより、出演のみならず企画、音楽、編集などCM制作における全面的なご協力をいただき、セブン-イレブン・ジャパンとしても初の本格的な企業イメージCMを放映することで、商品・サービスの開発力、信頼性、スケールなどにおいて、より一層の差別化を訴求するとともに、新しい時代に向かって新たな姿に生まれ変わる企業イメージを力強く表してまいります。

セブン-イレブン・ジャパンは、広告を「企業のメッセージを伝える経営戦略の柱」と捉え、TVCMにおいても、企業及びチェーンの成長や認知度の変遷に伴い、コミュニケーションコンセプトをはじめ内容、質、量などを見直し、きめ細かな広告戦略を展開してまいりました。中でも、「商品、販売体制、CMが三位一体」とする思想のもと、新商品をメインに据えたTVCMは、多くの方々に評価をいただいております。

現在、セブン-イレブン・ジャパンは、21世紀そして本格的なネットワーク社会を前に、EC(エレクトロニック・コマース:電子商取引)ビジネスをはじめとする新規事業立ち上げに鋭意取り組んでおります。こうした日々のお客様のニーズや時代の変化を捉え、新しい姿に生まれ変わっていく企業イメージを表現するため、YOSHIKIさんを最適なアーティストとして迎え、平成12年5月3日より、YOSHIKIさんが制作、出演する斬新でモダンかつスタイリッシュな映像、音楽による企業イメージCMを展開してまいります。

記

1. CMストーリー:

(二つの異なる場所にて)

YOSHIKIがいるのはモダンなベントハウス。窓からはロサンゼルス of 広大な街並
が一望できる。もう一つの場所は近代的なオフィス。いかにも切れ者といった感じ
の美しい女性(マネージャー)。

窓際に立ったYOSHIKIが、マネージャーに電話をかける。YOSHIKIの手には近未
来的なデザインの携帯テレビ電話。

マネージャー : Hello?

YOSHIKI : 時が来た。

マネージャー : Yoshiki?

YOSHIKI : いつもの場所で…

(次のシーン)

YOSHIKIが運転し猛スピードで駆け抜けるランボルギーニ ディアブロ ミレニウム。

ヘリポートにて、プロペラが回転中のヘリコプターでYOSHIKIを待つマネージャー。

急停車するディアブロ。中からYOSHIKI登場。YOSHIKIとマネージャーを乗せたヘ
リコプターは上空へ。

画面にキャッチフレーズが現れる: NEW REVOLUTION STARTS

ヘリコプターが上昇し、コンクリートの地面に描かれたセブノーイレブンのロゴが
現れる。

最後に本物のセブノーイレブンのロゴが画面に登場。(敬称略)

2. 放映開始日: 平成12年5月3日(水)

3. 放送エリア: セブノーイレブン出店エリア(長崎県を除く26都道府県)

参考資料

－YOSHIKIさんのプロフィール－

伝説のロックバンド、X JAPANのリーダー。X JAPANは1989年のデビュー以来、アルバム、シングルのトータル売上2,100万枚、ビデオのトータル売上200万本という驚異的なセールスを記録する一方、ライブでも日本人としては初の東京ドーム3日連続公演を含め、計13回の東京ドーム公演(のべ動員数65万人)を行うなど、ロックバンドとしては前代未聞の成功を収めた。そのX JAPANにおいて、YOSHIKIはドラムとピアノを担当する傍ら、作詞家、作曲家、プロデューサーとしても中心的な役割を演じてきた。

彼がX JAPANの中で展開した音楽性や表現スタイルは、日本のロックシーンに多大な影響を与えた。今日、日本の音楽シーンを席卷するヴィジュアル系の先駆者として、YOSHIKIは今なおファンやミュージシャンから熱狂的な支持を得ている。

しかし、幼少の頃からクラシックピアノを学んだYOSHIKIの音楽性はロックだけにとどまらず、ビートルズのプロデューサー・ジョージ・マーティンと共同プロデュースで制作したロンドンフィルのアルバム(2枚組)では自ら作曲を担当し、日本国内だけでも30万枚というクラシックアルバムとしては未曾有の売上を記録するなど、クラシックの分野でもその才能をいかん無く発揮している。

また、YOSHIKIは自らが設立したインディーズレーベル「エクスタシーレコード」からLuna Sea、Gl'ay等のビッグネームを次々と輩出し、レーベルプロデューサーとしての非凡な才能を見せる一方、紅白歌合戦のテーマソングをはじめとする数多くのTV番組の主題歌を作曲したり、いくつかの映画のテーマ曲を手がけるなど、トップレベルの音楽プロデューサーとしても八面六臂の活躍を続けている。

1992年にLAに拠点を移したYOSHIKIは「One on One Recording Studio」を購入。また、1994年にはポリグラムグループとプロデューサー契約を結び「プラチナムレコード」を設立。海外でもQueenのロジャーテイラーとのコラボレーションをイギリスのチャートの上位に送り込んだり、KISSトリビュートアルバムにピアノコンチェルトを提供するなど高い評価を得、その活躍は世界レベルでの広がりを見せている。

昨年(2000年)の11月12日、皇居前広場で行われた「天皇陛下ご在位十年をお祝いする国民祭典」において、YOSHIKIが77人のオーケストラをバックに自ら作曲した「ピアノ協奏曲ハ短調 アニバーサリー」をピアノ演奏したことは記憶に新しい。この祭典の様子は全TV局によって中継され、7,000万人の日本人がYOSHIKIの演奏を見ただけでなく、世界中のメディアで大きく取り上げられた。

現在、YOSHIKIはLAのスタジオで自らのソロプロジェクト「Violet UK」の2000年全世界デビューに向けてレコーディング中。(敬称略)

以上